令和５年度 教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園　葛飾二葉幼稚園

1．本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

●自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子

遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。

●自らを律しつつ、他者を思いやれる子

友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。

●健康で、がまん強いたくましい子

物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2．本年度の重点目標

更なる保育の質の向上を目指しつつ、多くの職員が園児の見守りができるよう安定した職員配置ができる体制を整える。

3．教職員による、評価項目に対する自己評価実施（年3回）

第三者評価機構による調査（1月）、及び、葛飾区による指導検査の実施（3月）

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
①　保育の計画性	・幼児クラス対象、全１２回、ゲストティーチャーの持ち込みによる自然物ではく、園の自然環境を活かした保育の実践を行った。クラス担任は、受け身にならず、ゲストティーチャーと事前打ち合わせをし、当日までの活動が、その日につながるよう保育を行った。 ・コロナ禍が明け、外階段を利用して登降園していた乳児クラスが以前の登降園方法に戻ったり、保護者が園舎内に入ることができるようになったりなど、保護者と保育教諭が直接接点を多く持てるようになった。オンラインではなく、子どもたちの園での姿を直接見ていただける機会が増えるので、今後は、より充実した保育を実践していく。	A
②　保育の在り方、乳・幼児への対応	・L 字のパーテーションを考案し、独自に作成した。保育室とひろばの間に、保育室でもなく広場ではない空間があることで、保育室になかなか入ることができなかったり、にぎやかな保育室からいったん落ち着きたかったりする子ども、また、コーナー遊びにも役立てることができた。自分たちの空間としてうまく取り入れることができたこと、また、年少組では、集団の中に入ることに抵抗がある子どもが、保育室の中の空気（様子）を感じながら、その場で活動することができていたことは大きな成果であった。 ・コロナ禍で、個別支援児の家庭との連携が十分ではなかったため、今年度は、加算申請の協力家庭と園との連携を深める取り組みとして、運動会前、お遊戯会前の参観と面談を設けた。また、ふたばこどもセンターの開設に伴い、一日の中で幼稚園と療育（ふたば子どもセンター）を行き来することが可能になり、仕事を持った保護者の方が療育を利用しやすい環境が整い、利用児も増えている。今後は、ふたばこどもセンターに通所している子どもの積極的な情報共有を通して、双方の保育や保護者支援にも役立てていく。	A

③ 教師としての資質、能力・良識・適正	・園の自然環境を活かした保育の実践について、クラス担任にとっては、日頃の保育の中に身近な自然物を取り入れるヒントとなり、また、その経験を他の職員にアウトプット（ふたば通信作成、研修）することで、自然物と子どもの学びについて考え、既成の教材にとらわれずに、自然物を教材とした保育の実践を意識することができた。幼稚園の自然環境は、他園に誇れるもので、その自然を保育の教材に利用することは、特色ある保育につながると考えているため、次年度も引き続き、二葉幼稚園ならではの自然環境を活かした保育活動を行っていく。 ・新人職員を受け入れる側の意識改革として『受け入れ研修』を行い2023年度をスタートさせたが、連携が不十分だった点が課題として残った。人材育成につなげるため、新人育成については見直しを行っていく。	B
④ 保護者への対応	・通常5月に実施している親子遠足が、まだコロナ禍にかかっていたために実施することができなかった。親睦を兼ねている親子遠足では、担任と保護者、及び、保護者同士の関係性を構築していくために大切な行事であるため、4月の保護者会を親睦も兼ねた『クラス会』とし、クラスごとに土曜日の開催とした。年長組では弁当を持参し、食を共にすることで、最終学年としての最初の一歩をクラス全員で始めることができた。しかしながら、3年間をほぼコロナ禍で過ごしてきた年長組であったために、保護者からより思い出を映像として残したいという強い希望があり、力添えすることができた。	C
⑤ 地域の自然や社会とのかかわり	・昨年に引き続き、稲刈り体験や矢切の渡し乗船体験をした。今年度は、収穫したお米を給食室で炊いて食べ、食の大切さをより深めることができた。 ・学区の小学校との交流を持ち、年長組が1年生体験をさせていただいた。実際に使っている教科書を見せてもらったり、跳び箱や掃除用具なども見せてもらい貴重な体験ができた。 ・自然豊かな園庭を持つ園ならではの知識を身につけるということも兼ね、区の保育講座にて蜂の生態を学ぶ機会を設けた。蜂の種類、実際の蜂の巣を見たり、遭遇した時の行動などを学ぶことができた。	A
⑥ 子育て支援	・昨年度に引き続き、りんごひろばにて“先を見据えた育児”ができるよう、入園のための『ミニ説明会』を行い、乳児期から幼児期に向けての育児について分かりやすいように話をするなど保護者支援を行った。 ・コロナ禍の影響がまだ残っていたため、外部からの講師を積極的に依頼ができなかったため、次年度に向けての計画をたてるまでとなった。	B
⑦ 研修	・東京都私立幼稚園教育研修会、及び、葛飾区私立幼稚園研修会に積極的に参加するとともに、園内で行う必須研修や5分間研修も引き続き行った。また、職員管理システム内で研修計画、研修報告ができるようになり、園内研修実施日に不在でも内容を確認することができるようになった。	A

※自己評価結果の表示方法
A…十分達成された
B…達成された
C…取り組んだが達成が十分ではない
D…取り組みが不十分であった

4．今年度の総合的な園評価と次年度への課題

今年度は、第三者評価機構による調査、及び、葛飾区による指導検査が行われたが、文書指摘はなく、高評価を得ることができた。細かな点での課題はあるため、さらなる組織力向上のため、アドバイスいただいたことを意識しながら効率よく業務を行うようにしていく。

特に、職場環境においては、年々充実していっているにも関わらず、その環境を十分に活かしきれていないため、今後、どう活かしていくかを職員が一丸となって考え実践していけるようにする。

“対話が多い園は定着率が高い” との第三者評価者からのアドバイスを念頭に、また、若手職員の成功体験を増やし、やりがいのある職場づくりを目指してく。

5．財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。